

広報

もり 中部の森林

Good Wood
Workers

詳しくは
こちら



写真
募集中!

令和4年12月23日

林業従事者写真コンテスト

撮影は安全第一で



私の森語り「たくさんの森の魅力に気がつく日々」
2022ミス日本みどりの女神 成田愛純

写真：「黄葉」(飛騨署管内)

特集

- ・森林技術・支援センター新庁舎落成式
- ・「独立基礎型流木捕捉工」による流木の捕捉状況等について

各地からの便り

- ・王滝小学校教職員研修・森林教室 ほか

シリーズ

- ・私の森語り、森林官からの便り、秘蔵写真・今は昔の林業、中部の保護林、国有林モニターのご紹介



林野庁中部森林管理局



2022/No.223



山並みに合わせた新庁舎の外観



新庁舎をご案内



落成式の様子

木のめくもりを感じる
新庁舎完成！

【森林技術・支援センター】

九月二十九日、岐阜県下呂市げろし

の森林技術・支援センターにおいて、新庁舎の落成式を行いました。

昨年九月から旧庁舎敷地に建替を進めていたもので、木造CLT構造の平屋建て、延床面積は約二百八十五平方メートル、外観は敷地から見える山並みの稜線に合わせた勾配屋根形状となっており、地域の景観に溶け込んだ落ち着いたデザインの新庁舎が下呂市の中心地に完成しました。

落成式では、下呂市長からお祝いの言葉をいただくとともに、庁舎の設計や施工を担当された関係者の方々に当局長より感謝状を贈呈し、くす玉を開き、落成を祝いました。

また、当センター所長からお礼の言葉とこれからも森林技術の開発や支援に力を尽くしていくことをお約束して落成式は終了し、完成した庁舎内をご覧いただきました。

昨年、「公共建築物等木材利用促進法」が、木材利用促進の対象を建築物一般に拡大した「脱炭素社会の実現に資するための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」に改正されました。

SDGsを踏まえた持続可能な取組が重要となっている中で、加工エネルギーが少なく、伐採後に植林や保育を行うことにより、再生産が可能な木材の利用を進めることが、より一層期待されています。

新庁舎は、先導的な木材利用をしているモデル的な建物です。その取組についてご紹介しま



随所に木材が使用されているホール

●構造材CLTについて

次世代の新たな木材需要の創出が期待されるCLT（直交集成板）が、建物の主構造部や車庫の屋根に百十六立方メートル使用され、木質空間の豊かさを感じられる施設となっています。CLTに使用されている木材は、国内産のスギ材です。



CLT【Cross Laminated Timber】
(ひき板(ラミナ)を並べた後、木の繊維方向が直交するように積層接着した木質系材料)

●暖房設備

ペレットボイラーについて
地域で産出されるペレット（木質バイオマス燃料）を暖房に利用することにより、化石燃料の使用を抑制するとともに、森林資源の有効活用になっています。



ペレットボイラー



ペレット
(乾燥した木材を細粉し、圧縮して円筒状に固めた木質バイオマス燃料)

●木材の再利用について

昭和三十四年に建設された旧庁舎（建設当時は下呂宮林署で使用されていたイスノキの床材を新庁舎の床材として再利用しています。

なお、この床材には、鹿児島宮林署木工場で製作されたとの記載が残っていました。



再利用されたイスノキ

木材炭素量の見える化

木は、二酸化炭素を吸収し、炭素として体内に蓄えており、木材として建物に使用されても、身近な木製品となっても、その効果は続いています。

新庁舎が実際にどれほどの炭素を貯蔵しているのか、林野庁が昨年十月に公表した「建築物に利用した木材の炭素貯蔵量の表示に関するガイドライン」に基づき、炭素貯蔵量を算出しました。その結果、使用した百十六立方

以上の木材は、二酸化炭素量換算で七三トンの炭素を貯蔵していることになり、森林だけでなく、街の中でも炭素を貯蔵しているという意味でも建築物における木材利用は非常に重要です。

林野庁のホームページでは、樹種、量、その他製材か合板か等が分かれば、簡単に炭素貯蔵量が算出できますので活用してみてください。

※富山署、北信署、岐阜署、南木曽支署の庁舎の木材炭素量は、HPで公表しています。
当サイトへは、QRコードを読み込んでください。



森林技術・支援センター庁舎に利用した木材に係る炭素貯蔵量(CO₂換算)

延べ床面積	国産材利用量	国産材の炭素貯蔵量(CO ₂ 換算)	木材全体利用量	木材全体の炭素貯蔵量(CO ₂ 換算)
285.28 ㎡	116 ㎡	73 t-CO ₂	116 ㎡	73 t-CO ₂

この表示は、林野庁「建築物に利用した木材の炭素貯蔵量の表示ガイドライン」(令和3年10月1日付け3林政産第85号林野庁長官通知)に準拠し、この建築物に利用した木材が貯蔵している炭素(CO₂換算)の量を示すものです。

木材は、森林が吸収した炭素を貯蔵しており、木材を建築物等に利用していくことは、「都市等における第2の森林づくり」としてカーボンニュートラルへの貢献が期待されています。

【計算式】

$$\text{木材の材積(㎡)} \times \text{密度(t/㎡)} \times \text{炭素含有率} \times 44/12 = \text{炭素貯蔵量(CO}_2\text{換算)} \text{ (t-CO}_2\text{)}$$

【計算】

- CLT構造材
スギ 89.17㎡×0.331t/㎡×0.500×44/12=54.0t-CO₂
 - 構造材
ヒノキ 5.44㎡×0.383t/㎡×0.500×44/12=3.8t-CO₂
 - 構造材
カラマツ 5.25㎡×0.435t/㎡×0.500×44/12=4.2t-CO₂
 - 製材
スギ 8.91㎡×0.331t/㎡×0.500×44/12=5.4t-CO₂
 - 製材
ヒノキ 6.21㎡×0.383t/㎡×0.500×44/12=4.4t-CO₂
 - 製材(国産材以外)
樹種不明 0.41㎡×0.331t/㎡×0.500×44/12=0.2t-CO₂
 - 製材(再利用)
イスノキ 0.89㎡×0.783t/㎡×0.500×44/12=1.3t-CO₂
- 計 73.3t-CO₂

※木材使用量には、車庫棟(延べ床面積35.57㎡)1棟に使用した木材使用量を含みます。

「独立基礎型流木捕捉工」による
流木の捕捉状況等について

【治山課】

平成二十九年の九州北部豪雨による甚大な流木災害等の発生を受け、中部森林管理局では、施工が容易であること、効果的に流木を捕捉することなどを目的に「独立基礎型流木捕捉工」を開発し、管内の四箇所において試験施工を実施しました。

このうち、富山県魚津市片貝国有林（東又谷）に設置した箇所において、本年八月二十日の降雨により流出した流木を捕捉しましたので、その状況などをお知らせします。

なお、今年度の調査業務では、当箇所を含む試験施工箇所のモニタリング調査を行うとともに、岐阜県高山市・飛騨市の高原川流域において流木潜在量を調査のうえ、流木対策計画を策定する予定です。

今後は、当局のみならず他局等の施工事例についても情報収集や共有を行い、効果・課題等の検証を進め、改良及び普及に取り組めます。

上空から見た捕捉状況(その1)



※今般の降雨では70~80m²の流木を捕捉したものと推測されます。







上空から見た捕捉状況(その2)



地上から見た捕捉状況



定点カメラによる時系列の変化(1時間毎に撮影しているものを抽出)

カメラ位置	2022/8/20 12:00 (出水前)	2022/8/20 18:00 (出水時)	2022/8/21 9:00 (出水後)
上流カメラ			
右岸カメラ			

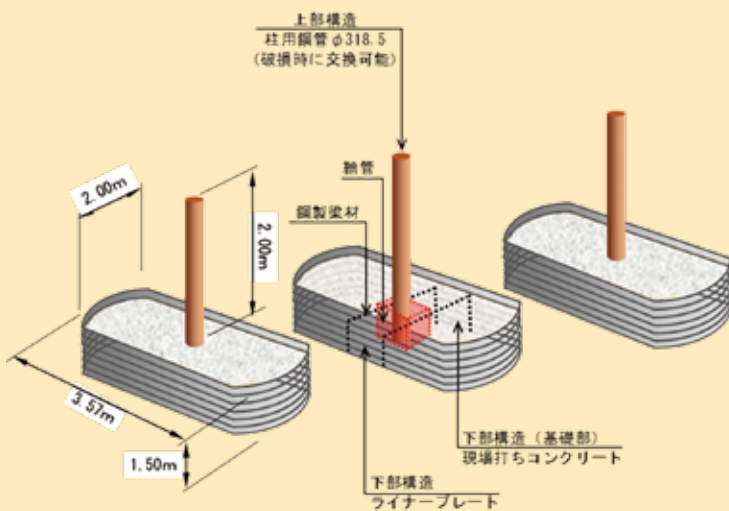
構造概要等

構造は、流木捕捉を目的とした鋼管による上部構造、コンクリート及びライナープレートからなる独立基礎としての下部構造及び上部構造と下部構造を接続する^{さやかん}鞘管と鋼製梁材^{こうせいはりざい}からなる。

【主な特徴】

- ・鋼管及び鋼管を建て込むコンクリート基礎が単体で独立した構造を有しているため、自在な配置が可能
- ・建て込まれた鋼管は、被災や腐食等老朽化の際の部材交換が可能
- ・従来型の透過型ダムと比較し、経済性・施工性において優位

【模式図】



【施工状況】



▼中部森林管理局のホームページにおいて「独立基礎型流木捕捉工」のガイドライン等を掲載しています。
▼<https://www.rinya.maff.go.jp/chubu/chisan/guideline.html>



「王滝小学校教職員研修」
「王滝小学校森林教室」を実施



【木曾森林管理署】

八月十九日、王滝村御岳国有林の濁川治山施工地において王滝小学校教職員研修を実施しました。

この研修は、王滝村教育委員会が村内の小学校教職員を対象に毎年行っているもので、今年も森林管理署の業務について理解を深めるため、「昭和五十九年九月十四日に発生した長野県西部地震による被災箇所」の治山工事現場を見学したいとの依頼を受け、実施したものです。

当日は晴天に恵まれ、御嶽山の噴煙が見える場所にて当署職員より「長野県西部地震災害の概要」と「被災後の治山の取組」について説明しました。地震により御嶽山の南斜面が大崩壊（御岳崩れ）し、土石流となって流下した箇所を目的としたりした先生方は、その規模と治山事業により復旧した被災地の状況の変化に驚くとともに、現地の石を観察するなど、興味深く見学していただき、予定時間を大



地域や住民を守る「治山ダム」を見学

幅を超える研修となりました。先生方からは、「御岳崩れは、写真などで知っていたが、現場を見て大変勉強になった」「このような奥地で、災害復旧のために治山ダムを施工し、ボランティアによる植栽を行うなど、多くの人の力で緑の山になったことに感動した」「現在、小学校では防災訓練や災害対応等について学習しているので、子どもたちにも実際に自分の目で見て学んでもらいたい」等の感想やご要望をいただきました。

ご要望を受け、九月五日、王滝小学校の児童を対象にした森林教室を同じ場所で開催しました。

参加者は、一年生から六年生の児童十一名と学校関係者六名で、パネルを使って現地の説明をした後、「裸地化した山腹」と「立木等が生い茂る山腹」の模型を使用して、水（雨）を流して、その量や色（水質）を比較する実験を行いました。

子どもたちは、裸地化した模型から流れ出る水は茶色く、勢いがあるのに対し、立木等が生い茂る模型から流れ出る水はきれいで、徐々に出てくることに驚き、森林の持つ機能を理解するとともに、森林や治山ダムに守られていることを実感できる有意義な森林教室となりました。

今年で地震から三十八年が経過し、災害跡地も復旧してきています。

近年、日本各地で豪雨による災害が多発している中で、森林や治山事業が地域や住民を守っていることを多くの方々に知ってもらいたいと考えています。



2022年（災害発生から38年後の様子）



1984年（長野県西部地震直後の様子）

歴代最高値を更新！
信州プレミアムカラマツを出品



【北信森林管理署】

八月二十四日、長野市の長野県森林組合連合会北信木材センターの原木市に、木島山国有林から出材された林齢一〇〇年生の「信州プレミアムカラマツ」を出品しました。

信州プレミアムカラマツは、長野県産の林齢八〇年生以上の人工林から出材される長さ四〜六メートル、直径三〇センチ以上の良質な丸太とされており、今回出品した長さ四メートル、直径三十四から四十四センチの計五本は、すべて高値で落札されました。

最も高値が付いた丸太は、一立方メートルあたり五万円で、平成二十九年度に信州プレミアムカラマツが初出荷されて以来の最高値であった一立方メートルあたり五万円の記録を更新し、関係者全員が驚くとともに、ブランド材として高く評価していただいたことに感謝しています。また、カラマツ材全体の評価が上がることも期待しています。



直径44cmの丸太

産地等	長さ	直径	材積 (m³)	1 mあたりの税抜き価格 (円)
木島山国有林 (木島平村) 林齢 100 年	4 m	44cm	0.774	51,000
	4 m	42cm	0.706	50,000
	4 m	38cm	0.578	40,000
	4 m	36cm	0.518	36,000
	4 m	34cm	0.462	36,000
	計		3.038	

信州プレミアムカラマツの販売結果

「みよし市友好の森
ふれあいツアーに参加」



【木曾森林ふれあい推進センター】

八月二十七日、木曾町三岳地区において、「みよし市友好の森」ふれあいツアーが開催され、当センターと木曾町森林組合の職員が間伐作業等の指導を行いました。

みよし市友好の森は、元々国有林であった森林を、平成三年度および十一年度に当時の愛知県三好町が住民の暮らしで恩恵を受けている木曾川の水源地の保全等を目的に取得したもので、平成十五年からふれあいツアーが開催され、当センター等が作業の指導を行っています。

コロナ禍のため三年ぶりの開催となりましたが、朝七時三十分のみよし市を出発した市民十八名（うち小学生八名、中学生二名）は、十一時頃に木曾町三岳地区にある御岳ロープウェイに到着し、昼食とロープウェイの乗車体験を行った後、友好の森に移動しました。

参加者は五班に分かれ、ヒノキの間伐作業とクマによるヒノキの



楽しみながら間伐作業をする参加者

皮剥ぎ被害防止のためのテープ巻き作業を実施しました。何度もツアーに参加している方は、慣れた手つきで伐倒作業等を行い、他の方にアドバイスするなど、交流を深めながら無事に作業を終えました。

ツアー終了後にみよし市が実施したアンケートでは、「木を伐ることが楽しかった」「指導員の皆さんが親切でよかった」「また木曾町を訪れたい」との感想が寄せられ、この活動の大切さを再認識しました。

**登山道の安全確認など実施
森林合同パトロール実施**

【飛騨森林管理署】

九月三日、飛騨警察署及び飛騨市消防本部古川消防署と協力し、飛騨市宮川町打保地内に所在する万波国有林を経由し富山県境の白木峰へ至る登山道のパトロールを実施しました。

六月に実施したパトロールの目的は、遭難事故防止や山火事予防等でしたが、今回は秋の登山シーズンを前に登山口から白木峰までの約五キロメートルに及ぶ登山道の危険箇所や標識の標示等について確認しました。

参加者八名でパトロールを実施し、あと三十分ほどで白木峰に着する所で天候が急変し、大粒の雨が降り出し、白木峰に到着した時には本降りになりました。

天候が回復すれば、白木峰より東へ五百メートルほど先にある富山森林管理署管内の「浮島の池」までの登山道も確認したかったのですが、今回は断念し、雨合羽を着用して濡れた登山道の状態を確認しながら

ら登山口まで戻りました。

紅葉シーズンに多くの登山者が訪れる白木峰ですが、富山県側から登る林道は、土砂崩れの影響で車両、徒歩とも通行できないことから、岐阜県側から登る登山客が増えることが予想されます。

案内標識などをしっかりと確認し、寒さ対策にもなる雨合羽を持って、紅葉と高山帯に広がる湿原とのコントラストが見事な白木峰をお楽しみいただきたいと思えます。



足下の危険箇所もしっかりと確認

大学生の

インターンシップを実施

【中信森林管理署】

九月六日から八日までの三日間、千葉大学と新潟大学の学生二名を対象にインターンシップを実施しました。

今回受け入れた実習生の志望動機が「高山植物の保全活動を経験したい」「木材の収穫から販売に至るまでの森林経営や治山業務を体験したい」でした。

そのため、初日は水沢山国有林にて林況調査を実施することとし、輪尺を使用した毎木調査、簡易な調査方法であるビッターリッチ調査、全天球パノラマ写真と計測ツールを活用した調査を行い、それぞれの調査結果から森林に蓄積された材積を算出し比較しました。

二日目は、観光スポットでもある美ヶ原国有林でグリーンサポートスタッフと高山植物等保護パトロールを実施し、電気柵によるアツモリソウの保護箇所を確認しました。また御殿山国有林に移動し、

松枯れ対策実施箇所も確認しました。

最終日は、生産事業地において、山から架線が木が搬出され、高性能林業機械で玉切りされる様子や、治山事業で設置した流木捕捉工を見学し、各事業の説明を受けました。

体験を終えた実習生からは、「こんなに多くの業務を行っていることが分かり、調査体験もでき、大変有意義でした」「もしかしたら皆さんと一緒に仕事をする時が来るかもしれません」といった感想が聞かれました。今回のインターンシップでの経験が、少しでも将来の夢に役立つことを期待しています。



ビッターリッチ調査を体験する実習生



標高約2,900mでの植生マットの敷設作業

駒ヶ岳植生復元作業を実施

【木曾森林ふれあい推進センター】

九月八日、上伊那郡宮田村の黒川国有林(木曾駒ヶ岳)で、平成十七年から当センターが主体で実施している高山植物の植生復元作業を行いました。

この取組は、登山者の増加が誘因と考えられる踏み荒らしや、大量の降雨や融雪水、凍結融解による砂礫の移動等が高山植物植生地の荒廃に拍車をかけている状況から、登山道周辺の植生復元を目的に、植生マットの敷設と播種を行っているものです。

今年には長野県、宮田村、南信及び木曾森林管理署等の職員に応援していただき、総勢二十四名で作業を行いました。

植生マットなどの資材は、作業地の事前確認や播種用の種子を採取した際にあらかじめ現地まで運搬し、宝剣山荘に仮置きをさせてもらっていたため、当日は急な登

り坂である八丁坂での荷物運搬はありませんでした。

この日は台風十一号の影響により大気が不安定で、作業は強い雨が降る厳しい条件下で行いましたが、参加者が連携して作業を進めたため、予定した植生マットの敷設と播種を無事に終えることができました。

この作業地一帯は、ライチョウが度々目撃される稜線で、勾配が緩やかな登山道でもあることから、散策される方は年々増えています。

今年の作業地付近には、近年の敷設箇所があり、そこには高山植物の稚樹が散見され、少しずつではありますが、これまでの取組の成果を実感することができます。

また、この復元作業により、作業を行った区域を視覚的に認識でき、登山道以外への踏み込みの抑止と表土の保全や種子の保持等が期待できることから、今後も関係機関と連携し、継続して実施していきたいと考えています。



みどりの募金活動

■自己紹介
女優やモデルとして活動しています。みどりの女神の活動では、みどりの募金活動の広報やみどりや木とのふれあい活動を通じて、木への親しみを広める役割も担っています。



2022 ミス日本
みどりの女神
なりた あすみ
成田 愛純

「たくさんの森の魅力に
気がつく日々」

シリーズ
「私の森語り」
もりかた

森林・林業との関わりの中で、
様々な課題に挑戦されている方
の取組を紹介します。

■活動内容
八月、大分県にて開催された二〇二二年全国乾しいたけ振興大会iノオーガニックシティさいきに司会として参加しました。
みどりの女神になり、きのこに興味を持つまで、料理に乾しいたけを使用したことがあります。ですが、きのこマイスターの勉強をしていくうちに、しいたけは乾燥させることで、栄養成分がギュッと凝縮し旨味が増すことや、いろいろなお料理に活用でき

趣味は料理をすることです。もともと大好きだった「きのこ」がみどりの女神で全国の森林に行かせていただくうちに更に好きになり、ついにベーシックきのこマイスターの資格も取得しました！
美味しいだけでなく、ヘルシーで美容にも良いきのこの魅力を広めていくと共に様々な料理に挑戦している毎日です。



きのこを使った手作りランチ♪

ると知り、乾しいたけを使った料理を作ることが増えました。
そんな乾しいたけは現在、食文化の変化により若者を中心に乾しいたけ離れが進み、消費量が減少するなど、乾しいたけを取り巻く状況は厳しさを増しているそうです。
この状況を変える為に、全国の関係者の更なる団結と乾しいたけ生産者の意欲を喚起することが必要であると考え、原木しいたけ栽培発祥の地といわれる佐伯市にて全国乾しいたけ振興大会が開催されたそうです！
この振興会を通して、私を含め多くの消費者に乾しいたけの魅力が伝わっていったように感じました。また、私も皆様と一緒にきのこを盛り上げていきたいとおもいました。

■メッセージ

普段、みどりの女神として全国各地の林業現場の視察に行く際には必ず趣味であるフィルムカメラを持ち歩きます。

みどりの女神の活動を通じて更にカメラが好きになりました。

普段は立ち入ることが少ない森林を撮影し、現像する時、「こんなのが写っていたんだ」と、そこで新たな発見があり、毎回ワクワクします！

現在、「林業従業者フォトコンテスト」を開催中との事ですが、以前、私たちの生活する上では欠かせない森を守り、森を支えてくださっている林業関係者の皆様の姿を拝見した際に感謝の気持ちと関心を持ちました。

もっと多くの方に皆様のかっこいい姿が届いたら嬉しいです。

是非応募してみてください！

○連絡先

一般社団法人ミス日本協会
〒一六〇〇〇〇三三
東京都新宿区西新宿二一一一
京王プラザホテル南館九階
<https://www.missjapan.jp/>



●きのこの話

十月十五日は、きのこの消費拡大と生産振興を目的に、きのこのに関する知識や健康食品としての有用性、調理方法等を浸透させるために日本特用林産振興会により制定された「きのこの日」です。

ベーシックきのこのマイスターの資格を取得された成田愛純さんは、十月八日に長野市で開催された「ナガノきのこの大祭」において、きのこのトークショーを行うなど、積極的にきのこの魅力を発信されています。

秋は野生きのこのが多く採れる時期ですので、きのこの狩りを楽しみにされている方もありますが、きのこの中には有毒なものがあり、例年、誤って有毒きのこのを食べたことによる食中毒が多発する時期でもあります。

分らないきのこは採らない、食べない、人に渡さないを徹底することが重要です。野生きのこの特徴を完全に覚えて、有毒きのこのによる食中毒に注意してください。

きのこを無駄にしない切り方

エリンギ



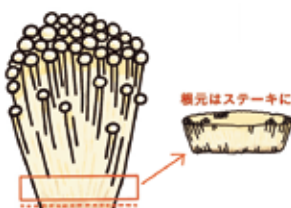
基本的にすべて食べられます！
根元のへこみ（栽培ピンの口の痕）が気になる場合はカット。
手で割く、包丁で輪切りやブツ切りにすれば異なる食感に

ぶなしめじ



手で株を半分に分けてから
石づきを斜めにカット

えのきたけ



オガゴのついた石づきをカット。
石づきの上部（根元）は輪切りにして、「株ステーキ」に



（中部森林管理局 広報）

現在、きのこは栽培技術の進展により、いつでも手に入る食材です。きのこを知ること、新たな料理に挑戦する方も増えると思いますので、きのこを無駄なく、おいしくいただきます。よろしく。



フィルムカメラで撮影した林業の現場（成田愛純さん提供）

フォトコンテスト Good Wood Workers

令和の林業に携わる姿と風景 写真募集

森で撮れた、自分や同僚・仲間 Good な写真を送ってください。

令和4年12月23日

応募は簡単！

撮影は安全第一で QRコードから

●林業従事者フォトコンテスト

募集開始から二ヶ月経過したフォトコンテスト。

これからの時期も素敵な写真が撮れることを期待して、秋色のポスターを作成しました。

富山県、長野県、岐阜県、愛知県内で働く林業従事者や森林の風景を多くの方にご覧いただき、林業や中部の森林に興味を持っていただきたいと考えておりますので、林業従事者のみなさま、スマホなどからお気軽に応募ください！

シリーズ

森林官からの便り

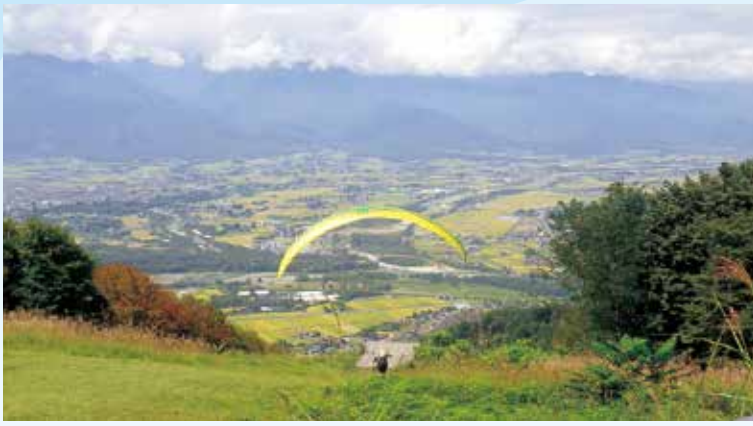
国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。

【中信森林管理署

松川森林事務所

森林官 坂井 晃

松川森林事務所は、長野県北西部に位置する北安曇郡松川村に所在し、松川村内の馬羅尾国有林と、安曇野市内の中房・常念・唐沢国



山から安曇野に飛び立つ！

有林の約七、五一〇鈔を管轄しています。

安曇野と呼ばれるこの地域は北アルプスの麓にあり、雄大な山々を源とする一級河川が数多く流れ、いくつもの扇状地が重なり合う複合扇状地が美しい緑豊かな土地です。

また、扇状地の末端では湧水地が多く、この湧き水を利用した日本最大規模の「大王わさび農場」や北アルプスの豊富な雪解け水で育つ米どころとしても有名です。

管内を代表する燕岳は登山者にとっても人気のある山で、シーズンを通して賑わい、有明富士と称される有明山は二百名山の一つとして全国から登山者が訪れます。

安曇野市内にある国有林は、コメツガを主体とした天然林が面積の九割を占めています。残りは、カラマツやスギ、ヒノキの人工林

ですが、近年、植栽したヒノキ等を食害するニホンジカの増加が危惧されています。そのため、センサーカメラでニホンジカの動向を調査し、委託捕獲を実施しています。



あがりこサワラ

松川村内の馬羅尾国有林には、「あがりこサワラ」という珍しいサワラの巨木群があります。「あがりこ」とは、人為的に台伐りした樹木が萌芽して奇妙な樹形になることを指しますが、サワラは萌芽力が低いため、側枝を直立に成長させ、次の台伐りは更に上部の側枝が発生している箇所で行うことにより、独特のあがりこ樹形が形成されています。

現在、約七鈔のあがりこサワラ

の巨木群は、松川村と協定を結び「多様な活動の森」として保護管理されています。

■未来の担い手へのメッセージ

この職場に入り、治山工事で山の中に治山ダムを設置し、崩れた山を復旧したり、森林整備で木を切って木材を生産し、伐採跡地に木を植えて育てたりという仕事をしました。工事が無事完成した時や立派に成長した森林を見る時、とてもやりがいを感じます。自然の中を歩いて汗を流しながら時に癒やされながら、自然を相手にした仕事をしてみませんか？



生産現場にて

シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第18回

中部森林管理局技術普及課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともに紹介します。

「馬」

機械化以前の林業では人の手による作業以外にも各種の動物、特に馬の力に頼る場面が見られました。

〔写真〕昭和十四年、巡視する帝室林野局長官一行
(現在の南信森林管理署管内)



ある時は移動手段として、ある時は空トロッコの運搬、ある時は馬車による木材の運搬といった各場面で馬が活躍していた写真が残されています。

〔上写真〕昭和二十三年、空トロッコ引き上げ
(現在の東信森林管理署管内)



〔下写真〕昭和二十三年、馬車への積み込み
(現在の木曾森林管理署管内)



事業の規模としては自動車や森林鉄道などと比べるとかなり小さなものであり、はたして戦前の帝室林野局や農林省山林局が自ら馬を飼育していたのかどうかはよく分かっていません。あるいは民間で飼われている馬を一時的に借りていたのかもしれませんが。木曾地域では昭和五十年代まで馬搬(馬による木材の搬出)が僅かながら行われていたとも聞きます。

現代の国有林の仕事で馬が活躍する場面はまずありませんが、林業家の中には林業機械や自動車よりも森林に与える影響が少ない点や馬との触れ合いに注目して、改めて馬搬に取り組んでいる方もいらっしゃいます。

〔上写真〕昭和二十五年頃、馬搬
(現在の東信森林管理署管内)



〔下写真〕昭和三十年代、ソリ曳き
(現在の飛騨森林管理署管内)



ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。
当サイトへは、QRコードを読み込んでください。



高原に広がる針広混交天然林

うつくしがはら
美ヶ原

生物群集保護林

設定目的

美ヶ原は長野県松本市、上田市、小県郡長和町にまたがる高原であり、保護林はその北端から東南端に位置しています。

コメツガ、トウヒ、シラビソ、ウラジロモミ等の針葉樹や、ミズナラ、カエデ等の広葉樹から構成される亜高山帯の生物群集を有する森林の保護・管理を一体的に行っています。

地況・林況

美ヶ原の最高峰は王ヶ頭(二、〇三三メートル)であり、日本百名山の一つでもあります。

長野県のほぼ中央に位置していることから、富士山や北・中央・南アルプス、八ヶ岳など広い範囲の峰々を見渡すことができます。

保護林の標高は一、四〇〇メートル、九〇〇メートルで、冬の寒さは非常に厳しく、零下二十度以下になることも珍しくありません。

周辺は牧場やハイキングコース等に利用されており、景観や高山植物を楽しむことから多くの人に親しまれています。

所在地

長野県上田市、小県郡長和町



※自然保護のため、詳細な位置情報は掲載していません。

国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年(大正4年)以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイアルイン：026-236-2612



※詳細は、QRコードを読み込んでください。

国有林モニターのご紹介



きそさんせん
木曾三川
(ペンネーム)
(岐阜県)

◇自己PR:(趣味や特技など)

花づくり、スポーツジム、
ペット飼育

◇国有林モニターに

応募いただいた理由

私の住む地域は長年河川の氾濫で苦しんだ地域で、国の治水事業のおかげで現在なんとか安全に住むことができます。

そんななか国有林モニターのことを知り、治水ばかりでなく治山の歴史や現状が知りたくて応募しました。

◇国有林に期待すること

国有林を全く知らない人にその存在をもっと広報してもらいたい。森林が防災により役立つよう活用していただきたい。

写真・マツバギク(花ことばは心広い愛情です。大変繁殖力が強いので庭のグランドカバーに最適です。)

木づかいが 森をよくする 暮らしを変える

ウッド・チェンジ

森の資源の循環利用

使う → 植える → 育てる → 伐る → 使う

「ウッド・チェンジ」は、身の回りのものを木に変える、木を暮らしに取り入れる、建築物を木造化・木質化するなど、木の利用を通じて持続可能な社会へチェンジする行動です。

木材利用促進本部
農林水産省 総務省 文部科学省 国土交通省 経済産業省 環境省
10月は木材利用促進月間



サンゴハシタケ



ハナイグチ



ナラタケ



クヌギタケ



ドクツルタケ (猛毒)



エノキタケ



タマゴタケ

国有林野内のきのこたち

北信署管内 (カヤの平グリーン・サポート・スタッフ提供)

編集長だより

(中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、
migoro@maff.go.jpまで電子メールでお送りください。)

10月は、「木材利用促進月間」です！
日本の国土面積の3分の2に当たる約2,500万haは森林で、森林の蓄積は人工林を中心に、毎年約6,000万m³増加しています。

森林で育てた木材を建築物等に活用することで、資源の循環、地球温暖化防止、国土保全といった公益的機能の発揮や林業・木材産業の振興による地域経済の活性化等に繋がることが期待できます。

また、使い捨てのスプーンやストローを紙製にするなど、脱プラスチックの動きは着実に進んできているように思います。

育てることができる資源である木材、これからも日々の暮らしに取り入れてください。

そして、森林資源である木材を活用するためには、林業従事者のみなさんの力が必要です！

なかなか見ることができない、みなさんの日々の姿のフォトコンテスト☆
たくさん写真が届くことを楽しみにしております(^^)

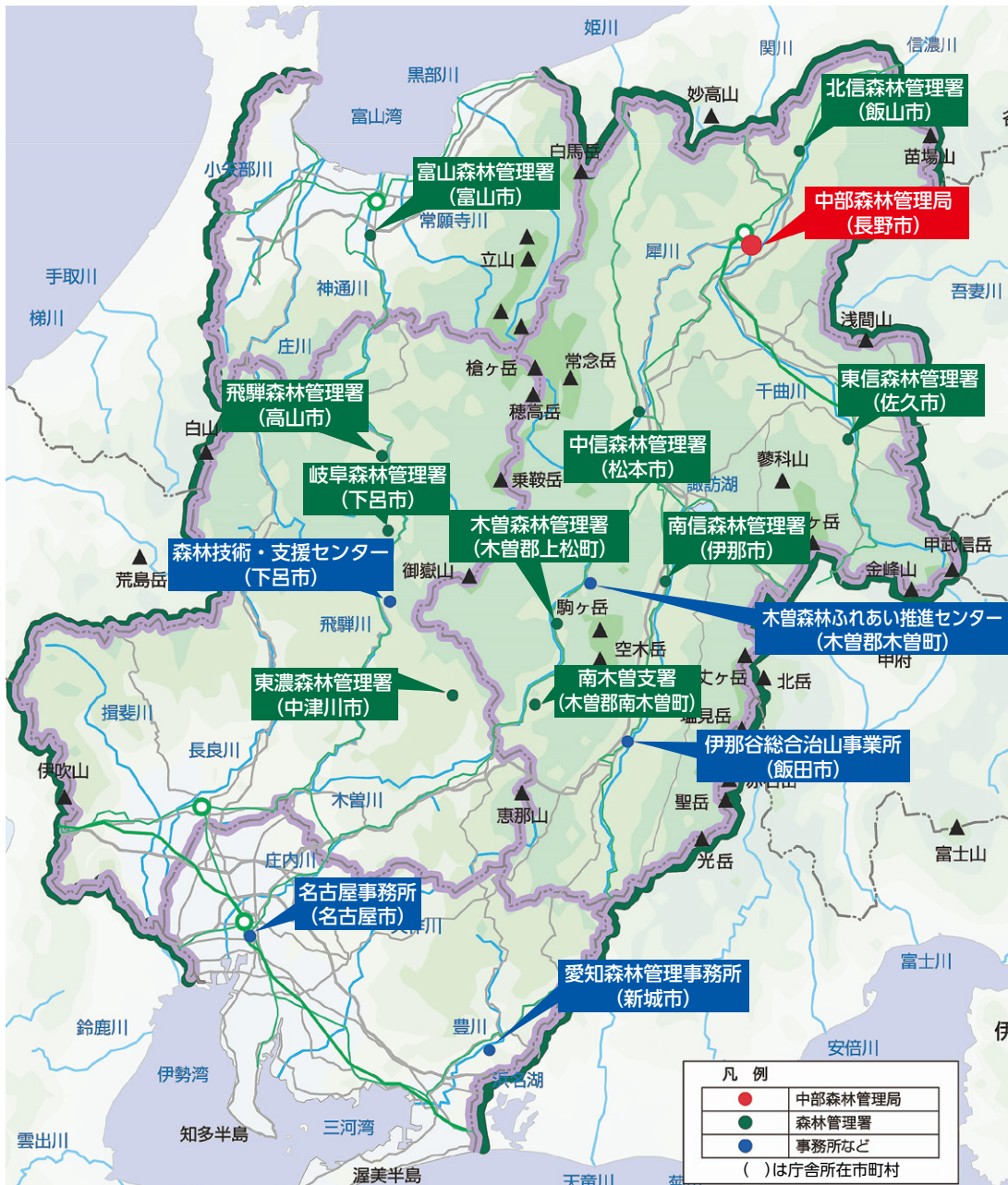


デジタル森への入場ゲートは、左のQRコードを読み込んでください。



デジタル森 テーマ「黄」

13. 「御嶽パノラマライン」(岐阜署管内)



中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下のQRコードを読み込んでください。



中部森林管理局
ホームページ



広報
「中部の森林」



用語の解説

本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。

名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	FAX 052-683-9269
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	FAX 076-424-4934
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	FAX 0269-62-4144
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	FAX 0263-47-4754
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市白田1822	TEL 050-3160-6055	FAX 0267-82-6959
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	FAX 0265-72-7774
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	FAX 0264-52-2582
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	FAX 0264-57-2686
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	FAX 0577-34-8932
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	FAX 0576-62-2503
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	FAX 0573-82-2109
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	FAX 0536-23-2254
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	FAX 0576-25-2420
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島1250-7	TEL 0264-22-2122	FAX 0264-21-3151
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	FAX 0265-22-0149

発行：林野庁 中部森林管理局
編集：総務課 広報
〒380-8575 長野県長野市栗田 715-5
電話：026-236-2531
FAX：026-236-2733
<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。
(毎月10日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります)
登録サイト <https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>
または、右のQRコードを読み込んでください。



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。